



濟
泉
錄
卷
之
三

門
賦
228
卷
3

の何れも、仁ハ命小授体ト云者原在 胞と種との互ハ是ありて、
其色正白よりして顆粒状を有し、果々壽福也申至序ハ
尾を去てさねものを生ずるものにあらず、その尾を生ぜ
りふ者ハ、諸の神至結中子玄數累積也、和らそ此尾ハ、
とも從さり故に、鮮く時針鋒より破りし者ハ、そもく元
より尾より其の、いハを断るを能ひ、その尾ハ所
謂脱髓維ト云くして、序より出でて末ハ髓維ト云ふハ
不者あり、此化育の維ト繋りるものあり、向序と序より
つりくものあり、一序よりして一尾を生ずる者何事、向互
尾を對生する者あり、向數尾を生ずる者何事、向一尾ト
してその尾より枝と分る者何事、一尾より其のハ、神至
結中より多く、其尾より其のハ、脊髓の序中より多く、其尾を
るものハ、髓脊の法骨髓中よりあり、神至結、神至幹共ト

結組維ト云、
此夜結中ト入て、其實質ト維ハ、李幹中ト入て、
の問ト混ハる
化育應意ハ兩元維の乳合を論するハ、いふハ一定あり、
と説は、いふハ、和らそハ神至結より生し、
神至の元維以て細くして、他ト比ト其者、
意神至の元維雜ハ、ふと生らざる、
とそと生らざる、
有維合して神至とそと生らざるものあり、
神至の根源を論するハ、ちとて、
とて、神至の極を證する者、
いけて神至の生らざる根を證するハ、
以上も要あり、一事より、

其下、一物時、終、和氣星、三十八天、正ルと云ふ事云、
可也、其、その道連、八、目、一、神、至、了、也、寒、暑、の、度、に、應、じ、て、
異、な、り、終、る、一、寒、け、に、は、毛、く、と、よ、り、て、は、金、く、飽、ぬ、事、と、
あ、る、感、應、の、感、動、を、尊、聖、を、る、ハ、神、至、の、性、よ、り、て、原、よ、
と、有、不、所、の、者、を、元、維、を、く、あり、性、を、具、へ、り、る、ハ、
物、を、維、ハ、終、り、毛、を、至、り、て、一、血、流、あ、り、て、枝、を、分、
取、り、け、る、ハ、維、連、行、し、て、一、神、至、を、至、せ、し、も、相、合、和、し、
て、其、様、を、取、り、り、ゆ、り、と、あり、し、は、生、理、神、よ、り、て、ハ、此、末、
端、り、と、彼、本、源、に、通、し、か、り、あり、の、末、端、り、と、ハ、あ、り、の、原、
に、通、し、その、道、派、よ、り、て、ハ、維、を、高、も、他、維、に、傳、へ、さ、る、事、の、
と、定、む、事、し、し、き、を、本、源、り、て、ハ、維、合、和、を、り、故、に、在、
混、じ、て、以、維、の、維、を、彼、維、に、傳、へ、る、ハ、常、り、其、合、動、合、覺、の、
理、を、中、了、り、終、り、と、事、を、終、り、合、動、と、何、と、り、云、意、よ、一

其、動、り、さ、む、と、其、と、を、り、終、り、意、せ、し、て、他、
筋、も、動、く、と、云、若、虫、出、よ、り、痛、を、覺、り、る、者、の、耳、痛、後、て、
あ、れ、ハ、此、礼、を、合、覺、と、云、若、覺、神、至、把、を、り、終、り、
意、に、應、じ、終、端、の、事、を、何、事、ハ、感、應、の、感、動、に、及、
い、ぬ、者、あり、て、し、ま、を、互、に、の、端、と、り、在、り、例、に、ハ、皮、
膚、を、こ、め、久、れ、ハ、又、と、生、り、心、動、を、以、て、く、事、終、り、
言、い、て、嚏、と、終、り、刺、痛、を、受、り、む、と、唇、を、嚙、し、外、科、の、
痛、を、忍、び、む、と、て、病、者、の、四、五、に、業、急、と、生、り、り、
と、感、應、の、理、も、て、物、を、腦、髓、に、連、り、神、至、ハ、精、神、に、互、
應、し、て、興、奮、せ、ら、れ、去、り、り、り、利、衛、也、に、應、じ、て、
感、動、を、り、と、事、を、ハ、端、の、事、を、あり、と、以、り、
感、覺、し、り、終、り、終、端、を、り、ハ、剖、割、の、例、も、て、
辨、し、終、り、微、鏡、も、て、元、維、を、見、り、と、あり、り、り、

極を色一に受けしハ、極一抄時、心洞の縮動六十度上
至七十度、呼吸も息も起る膨脹の時、寸寸して極上
其動脈を重なり、命死後二十五抄時を過ぎて、心洞の膨太
全く息を起る者、結神全より起り極を通し、左より起る
卒代として、活動を發し、左より神全結より發する神経も
猶腦神全脊神全のより、感覚感動の両維ありて、極を
本源に輸せし、本源より末端に傳ふ、その両道は、寸寸
ハ、結神全の入り、器と暴露し、針もて犯せ、其活動の
増する者あり、心け其器に入り、左より感覚維の犯する、と
と結髓に傳ふ、其より起りて、其より感動維に輸せし、故
又、更に其器の縮動する者あり、そのもて、尺を結能
も獨り縮動を起すの極を有する者あり、其極を、從腦脊兩
髓のより、又意の流し、心け其より起り、寸寸と、其道より、れ

ハ、其極を腦脊の神全へ、輸せし、そのより、寸寸と、其より、
いより、結神全に事あり、ハ、とて、腦神ありて、知王て、感動
を發する、とより、心け、其の比喩を、もて、初學に曉る、其
より、初め、左より、亦腦脊の兩髓に、結髓の、より、道の、異を
あり、結髓に、是より、抑且、汁、或ハ、腸中の、蓄物ハ、腸の
粘膜を、犯す、との、あり、亦、其、此、物に、犯さる、より、
至て、結髓より、出る、覺維、あり、て、去り、犯さる、と云
ふ、と結髓に、傳ふ、より、ハ、極結髓、其報に、應じて、復ハ、
此、礼を、動維に、傳ふ、より、ハ、動維、其、命を、奉りて、其、極を、腸中
に、發し、蠕動、極と云、者、以て、寸寸と、出、來て、犯す、一、原より、蓄物
を、拂り、んと、亦、其、左より、腸中、に、極を、發せ、不、は、日常の
と、其、寸寸、意、亦、此、を、知り、て、亦、ハ、心、け、腦髓と、結髓と、は、道
の、異、あり、と、心、け、寸寸と、其、寸寸と、は、其、髓の、維、ハ、寸寸と、

王維合一して一神経と云ふ、は下刺と云病は多うてハ
粘膜の起さる、と高しけしハ其勢強多て結韌に入
る、腦脊の神全は分てハ、若病起知覚機元進下弱を
ハ、此れを腦髓に達して意のれを覺て便氣を生を、
の刺衝の以て刺去けしハ、則ち腹痛痙痛を覺、若し其
勢、腦脊の動維を起り起せし、痙縮を下刺し、其を覺
機元の起る病者、向ハ小兒にありて發を不と醫士の日
々、上實驗を了所するへ、か、ふ例、上より時ハ、神全
結ハ、化育意の活動の原を不とハ、以て明らう多うし、
ありし興奮をらうし、時ハ、亦反意の意を中ありし、
治術に上りて論を起し、神全の貴要を不とハ、それを切
断を起ハ、その入左起意の壞死を了と殆ど意を快出
たりし、同し、さうて知る多し、此をハ、改て其貴要を不と

と云ハ要す、外科醫に取て、以て要あるとハ、
動維を別取ハ、一事を、動維病ハ、顛震を以て、
疼痛を頭ハ、起し、向ハ、起し、起し、起し、起し、
りて、起し、起し、起し、起し、起し、起し、起し、
う、起し、起し、起し、起し、起し、起し、起し、
神経に皆有る性、神全痛の病源を誤る者、
切斷して病根を去らむとて、痛を露起さ、不純一の動
神全を起し、起し、起し、起し、起し、起し、起し、
を、起し、起し、起し、起し、起し、起し、起し、
維に起し、起し、起し、起し、起し、起し、起し、
幸に陥ら、起し、起し、起し、起し、起し、起し、
ハ、起し、起し、起し、起し、起し、起し、起し、
あり、其病根ハ、起し、起し、起し、起し、起し、起し、

濟衆錄卷三終



